

# 令和2年度 第1回倉敷科学センター協議会 議事録

- 【日 時】 令和2年8月7日（金） 18：30～21：45
- 【会 場】 科学センター研修室及びプラネタリウム
- 【出席委員】 井出委員，富岡委員，山田委員，箕口委員，中原委員，花田委員，高木委員，岡本(美)委員
- 【欠席委員】 岡本(由)委員，河野委員
- 【事務局】 三宅部長，浅沼次長，三谷参事，藤田館長，三島主幹，石井主任，西村主任
- 【傍聴者】 無し

## 1 開会

### (1) 挨拶

【事務局】 ただいまから，令和2年度第1回倉敷科学センター協議会を開催いたします。

私は，倉敷科学センター館長の藤田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず会議の成立についてですが，倉敷科学センター条例施行規則第10条第6項の規定により，委員の半数以上の出席をもって成立いたします。今日現在，委員は10名で構成されておりまして，半数は5名以上の出席となります。ただいま7名出席（※中原委員が，令和2年度事業計画の報告の途中から出席したので，最終的に8名出席）されていますので，会議は成立しております。

なお会議は原則公開ということですが，本日は傍聴者がいらっしゃいません。

それでは，お手元にお配りしております協議会要項に従って進めて参ります。まず，会議に先立ち，教育委員会を代表いたしまして，生涯学習部長の三宅が御挨拶申し上げます。

【部 長】 本日は暑い中，御参加いただきありがとうございますございました。また日頃から科学センターの事業に御支援，御指導をいただきありがとうございます。皆様御承知のとおり，新型コロナウイルス感染症拡大予防のため3月に臨時休館を開始し，6月から諸々の感染症対策を講じ，入館者数の制限なども行いながら，館の運営を再開しているところです。まだしばらくは終息の見込みのない状況が続くと思われ，引き続き感染症対策に力を入れながら，科学館本来の機能を果たせるよう運営を進めていきますので，よろしくお願いいたします。本日は，前年度の事業報告等を含め，全天周映画上映作品2番組の選定を御協議いただく予定ですので，どうぞ忌憚のない御意見をいただきますようよろしくお願いいたします。

### (2) 委員紹介（名簿順に自己紹介）

### (3) 事務局紹介（自己紹介）

## 2 諮問

【事務局】本日御協議いただく事業計画について、諮問させていただきます。よろしくお願いいたします。

(諮問)「令和2年11月期及び令和3年3月期全天周映画上映作品の選定について」

(藤田館長から富岡会長へ諮問書を渡す)

## 3 報告・協議事項

【事務局】ここから議事進行を富岡会長さんをお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(ここから富岡会長が議事を進行)

### (1) 【報告1】「令和元年度事業報告について」(※予定の順番を変更)

【会長】はい。それでは議事の方を始めさせていただきたいと思います。

まだ1名お見えになっていない委員さんがおられますので、全天周映画の協議を残して、先に「報告1」の「令和元年度事業報告について」を進めさせていただきます。事務局からの説明をお願いします。

【事務局】まず、「資料1-1」から説明いたします。

3月の協議会の折も年度1ヶ月残して2月末までの集計を報告しておりましたが、科学展示室とプラネタリウム(宇宙劇場)の年間来館者数の統計です。

3月は14日から臨時休館に入ったので、約半月分の利用状況ですが、既に月初めには新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、来館者が激減していたため、例年の3月に比べて1割程度しか入っていないという結果となりました。年間通しては175,820人となっていて、これはむしろ多い方にランクされます。理由としては、リニューアル直後のプラネタリウムを、大勢のお客様が御観覧いただいた結果、18万人近くの来館者数になったものと考えられます。

「資料1-2」、「資料1-3」については、事前に配布して御覧いただくようお知らせしておりましたので、ここでの説明は省略させていただきます。

「資料1-4」を御覧ください。

例年載せていない今年度の月別来館者数の推移ですが、比較のためこの場をお借りして、説明させていただきます。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月14日から臨時休館を続けており、今年度は6月からの再開となりました。6月1日は月曜日で通常の休館日でしたので、2日(火)から実質再開となったところですが、まずはプラネタリウムと全天周映画を再開し、科学展示室は少し準備に時間をいただいて、1週間後の9日(火)から再開しま

した。「資料1-1」と比較しますと、6月は前年度の半分程度、7月は本来後半が夏休み期間に入るので来館者数が伸びる時期なのですが、前年度の3分の1に満たない程度しか利用がありませんでした。これは、新型コロナウイルス感染症対策のため、プラネタリウムと全天周映画については、ソーシャルディスタンスに配慮して165席から60席に定員を縮減するとともに、土日祝日及び夏休み期間中の上映回数を各3回から各2回に減じたこと、また科学展示室については、入館状況を見ながら、密な利用状況にならないようにチケットの発券を一時的に休止するなどして、同時入館者数をコントロールしながらの運営を行っていることによる減少と考えられます。

運営形態の変更によるトラブルは、概ね無いと言えますが、日曜・祝日などの連休期間中には、朝9時開館から1時間余りで展示室の入館制限をせざるを得なくなったり、午前中のプラネタリウム・全天周映画のチケットが早々に完売して、午後の回まで午前中に売切れたりすることも何日もあり、来館者の方に御不便・御迷惑をおかけすることがありました。

「資料2-1」から「資料2-3」についても、事前に配布して御覧いただくようお知らせしておりましたので、ここでの説明は省略させていただきます。以上です。

【会 長】はい。事業報告について、何か御意見・御質問はございますか。

【特に意見なし】

【会 長】御意見・御質問がないようでしたら、令和元年度の事業報告については、承認ということで終わらせていただきたいと思います。

【全員異議なし】

## (2) 議事録署名人の選任 (※予定の順番を変更)

【会 長】続いてですが、先に本日の議事録署名人を選任しないといけなかったんですが、飛ばしておりましたので、ここで2名の方を決めたいと思います。いかがでしょうか。

【特に意見なし】

【会 長】自薦がないようでしたら、私の方で指名させていただいてよろしいでしょうか。

【全員異議なし】

【会 長】それでは、山田委員さんと岡本(美)委員さんをお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【全員異議なし】

【会 長】それでは、お二方、山田委員さんと岡本(美)委員さん、よろしくお願いたします。

**(3) 【報告2】「令和2年度事業計画について」**（※予定の順番を変更）

【会 長】 それでは、次に「令和2年度事業計画」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 「資料3-1」を御覧ください。

ページ上に四角く囲んで、先ほど説明したような今年度6月からの再開状況について書いておりましたが、こういった運営状況を踏まえ、3月の協議会でお示した時点から事業計画を若干手直ししております。

まず、項番2の「利用者数見込み」ですが、大幅に下方修正しております。

「資料3-2」項番4-(1)の夏休み企画展については、3月の協議会で『科学ニンジャ学校』を選定していただいたんですが、5月末まで臨時休館が続く中、委託契約の期限が迫るも、感染症対策の終わりが見通せなかったことから、例年一番集客の見込める夏休みに、例え開館できてもわざわざ人を集めて密集を作る要因となるようなイベントをしない方が良いのではないかと、という判断をしまして、今年度は夏休み企画展を中止することとしました。中止にはしたんですが、企画展自体は一度協議会の場で御承認いただいた内容ですので、次年度に持ち越しという形で御承認いただければと存じます。最終的には、企画案提示から1年先送りになりますので、最新の情報を交えた案を業者から再度取り寄せ、次回の協議会で御承認いただくことにしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

項番5の講座・イベント等についても内容を見直し、中止するものは中止し、全体的にもソーシャルディスタンスを保つために、定員を各テーブル2人もしくは親子2組までとして12人もしくは12組までに縮小した上で、7月後半から再開しています。

項番5-(3)の公開教室については、無料で参加自由という運営形態が多く、どれも大変人気なのですが、特に毎月第2・第4土曜日に実施している「わくわく工作室」と「わくわく実験室」については、毎回100名から200名以上の参加があり、大変込み合う行事となっています。そこで、今年度は各回12組限定、受講20分+消毒10分の30分1セットで1日5回実施とし、当日到着順に整理券を配布した上で、何回目の何番テーブルという具合に席指定までして実施しています。

同じく(3)公開教室の「天体観望会」と「天文台公開（ミニ観望会）」については、無料で参加自由の上に、夜間に屋上の天文台に人が集まることと、望遠鏡の接触が個人単位で起こり、都度の消毒に時間を要することなどで、なかなか今までの規模の要望に応えづらい状況があります。そのため、現在10月以降の再開を目指し、事前予約制にして屋上での利用者の行動をコントロールできる人数・手法を具体的に詰めているところです。

また(2)の特別企画は、無料・参加自由の上、ライフパーク全館で展開するような大規模なイベントであるため、今年度はほぼすべて中止としています。以上です。

(中原委員が到着)

【会 長】 はい、ありがとうございました。

それでは、令和2年度の事業計画について、御意見・御質問はありますか。

【委 員】 先ほど「わくわく工作室」と「わくわく実験室」で親子12組と言われましたが、1テーブル4人だと対面になりませんか。

【事務局】 基本的に子どもたちが対角に座り、保護者は子どもたちの外寄りに座るか、後ろの

ベンチに控えていただくかして、対面にならないようにしています。併せて、職員の補助も控えるように事前に説明し、実際にできるだけ接触する機会を減らす工夫をしています。

【委員】もう一点、「移動プラネタリウム」なんですけど、今の学校の感染症対策を考えると、実施は不可能なのかなと思います。見通しはどうか。

【事務局】ドームテント内という構造上の問題で「三密」が避けられないと思いますので、学校から例え要望があっても、今年度の実施はできないだろうと、今の時点では考えています。

【会長】はい、ありがとうございます。他に、いかがでしょうか。無いようでしたら、一つ私から質問です。休館中の真備天体観測施設（たけのこ天文台）の、今後の再開の見通しはいかがでしょうか。

【事務局】真備図書館3階にあるたけのこ天文台は、皆さん御承知のとおり一昨年豪雨災害で図書館が被災したため、休館中となっていますが、既に建物の復旧工事に着手して年内には完了し、電気も使用できるようになりそうです。

本体の図書館の方は、書籍の入替えやシステムの確認などを行って、その後に再開となるようです。

天体観測施設の方は、2年間機能停止していたこともあり、通電後に望遠鏡等の機器の総合保守点検を行って、そこで機器に不具合が無ければ感染症対策をした上での再開時期の検討をしますし、機器の故障等があった場合には、修繕は次年度以降になるでしょうから、再開時期も次年度以降となります。

【会長】他にいかがでしょうか。無ければ、再び私から。大学でも感染症対策でリモートでの授業が続いていて、何をやるにしてもリモート慣れしてしまうような感覚もあるんですが、科学センターでは、休校中に学習が進められない子どもたちに対して、紙面での学習では経験できないようなことや、家庭ではしづらい実験などについて、動画配信によるサポートは行っていますか。

【事務局】科学センター独自ではオンラインコンテンツの配信は行っていません。学校が休校中の取り組みとして、ケーブルテレビ等の地元メディアの番組作りに協力して、科学実験などを収録し、放映・配信することはありました。

【会長】大学でも器具等を共用して大勢で実験を行えば接触が避けられず、なかなか実施するにはハードルが高いんですが、休校続きで実験ができない、学校再開しても実験がしづらいでは、子どもたちの「科学する心」が目減りするようで、もったいないことだと思います。そこに科学センターが何らかの形でサポートできれば良いな、と思います。

【委員】小学校も状況は似ていますが、普段から共に過ごす同じ学級の子どもたちなので、お互いを信用して、各自消毒等を徹底した上で、器具を共用しています。しかし、科学センターで講座を行うときには不特定多数の子どもたちが、いろんなところから寄り集まるので、そういう運用はできません。試みに学校の図書館でアクリルのつい立を購入して間仕切りをするようにしましたが、1台で1万円しました。この実験実習室だと1テーブル2台置けば12万円かかりますが、募集定員は2倍の24人までできるようになるかも知れません。しかし、実施する講座の頻度、費用対効果を考えると、そこまでして今、講座の参加者数を増やすべきかという、あまり現実的でないように思います。

動画で実験を見せることについても、本質的には、実験は子どもたちが自ら考え、直接体験するものだと思うので、ケーブルテレビに提供したような実験結果まで一気に見せるよう

なコンテンツだと、見終えて「ああ、面白かった」だけで終わり、先ほど言われたような科学する心を伸ばしていくことにつながりにくいと感じます。せめて、「実験結果は自分たちでやっごらん」という形で、しかも身近な材料のできる実験内容を科学センターが配信するのであれば、子どもたちの「科学する心」を伸ばしていくことにつながるコンテンツとなるのではないかと思います。

【会 長】ありがとうございます。他に、いかがでしょうか。

【委 員】高校でも、答えのないもので実験をやるから面白いと教えています。夏休みの教育課程が今年から始まり、新しい教育課程にとまどう先生方も多いようなので、小学校・中学校の先生向けに提案型でいいので「こんな授業の進め方はどうか」とか、「こうしたら子どもたちの科学的な力を養えますよ」というような内容で、動画コンテンツを制作したらいいと思います。ライフパーク倉敷には教育センターもあるので、ターゲットを教員にしてみたら喜ばれるのではないのでしょうか。

【委 員】その件で補足させてください。科学センターの主任科学指導員に御協力いただいて、今言われたようなことで、休業明けに4月・5月にできなかった授業をどうやって取り返していくかと考えて、小学校の教員向けに授業を進めるための補助コンテンツを一緒に作成して、市内全小学校に配信しており、こうした面での科学センターの協力はいただいております。

【会 長】はい。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

#### 【特に意見なし】

【会 長】それでは御意見・御質問も尽くされたようですので、先ほどの御意見や御要望等も踏まえていただき、令和2年度の事業計画についても、承認されたということで終わらせていただきたいと思います。

#### 【全員異議なし】

【会 長】それでは、「令和2年11月期及び令和3年3月期全天周映画上映作品の選定」について協議するため、会場の移動をお願いいたします。

本日上映していただくのは、『HAYABUSA2 -REBORN-』、『スーパーパワードッグ』、『ごん GON, THE LITTLE FOX』の3本で、10分後に上映を予定しておりますので移動の方をお願いしたいと思います。

【事務局】事務局の方で御案内いたします。

(プラネタリウムに移動)

ープラネタリウムで全天周映画候補作品試写を鑑賞ー

(上映終了後、実験実習室に移動)

(5) 【協議 1】令和2年11月期及び令和3年3月期全天周映画上映作品の選定について (※予定の順番を変更)

【会 長】全天周映画上映作品について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】まずは長時間に渡り、3本の映画を御覧いただき、お疲れさまでした。ありがとうございました。

それでは、資料5「全天周映画作品選定のガイドライン」とカラーのチラシ3枚を御覧ください。全天周映画は年に3本、7月、11月、3月に新作を投入します。1作品ずつ選定していただき、それぞれ1年間のライセンス契約を結ぶこととなります。資料5のページ下半分に「選定の目安」として、年3本上映する作品の内容について、望ましい3つの資質について書いてあります。「①科学解説の品質の高い作品」、「②集客力が期待できる作品」、「③低学年児童、幼児のニーズにこたえられる作品」に分類していますが、資質が重なったり、どれにも当てはまりがたい作品もあつたりするのかも知れないのですが、例えば恐竜の映画ばかりが続くような偏った選定をしないためのガイドラインということです。

1枚戻っていただいて、資料4-2のページ下半分に、職員の事前評価がランキング形式で載っています。今回はその内の上位3作品を御覧いただきましたが、表の右寄りに星印があつて、職員の評価を基に、作品内容が「子ども向けの作品」か「科学性の高い大人向けの作品」かという指標を、星の位置により5段階で表示しています。

また、資料4-3には、2017年以降の上映作品のラインナップを掲載しています。

これらを参考に、今年11月から、そして来年3月からそれぞれ上映開始する作品の選定を御協議願います。

【会 長】ありがとうございます。それでは委員の皆様にも御協議いただきたいと思います。どなたか、上映作品について、御意見、御質問等ございますでしょうか。

【委 員】3作品とも良かったんですが、まず『HAYABUSA2-REBORN-』については、良かったんですけど、見応えがあつて科学センターらしい作品だなあと思いました。『スーパーパワードッグ』も良かったんですが、映画館で観る映画のようでもあつたかな、と思いました。『ごん GON,THE LITTLE FOX』は、最後の鉄砲の音がバーンと鳴るの、ちょっと怖いような気もしましたが、味があつて感動的な作品で、集客が期待できるのかな、と思いました。

【会 長】はい、ありがとうございました。他に何かございますでしょうか。

【副会長】『HAYABUSA2-REBORN-』が見応えがあつて良かったと思つたんですが、私の勘違いでなければ、確か2020年の終わりぐらいに戻つて来るんですね。

【会 長】そうですね。

【副会長】なので、その付近に上映時期を重ねて行くと、観た人が「あ、そろそろ帰つて来るんだな」ということで話題になるのかな、と思いました。『スーパーパワードッグ』は良かったんですけど、たくさんの犬を紹介しすぎていて、何の話になっているのか、追いついていけない感じがしました。最後の『ごん GON,THE LITTLE FOX』は、私も知っているお話だったんですが、すっかり終わりを忘れていて、改めて観てみて、余韻のある終わり方、最後、観た人が先を考える、どういう判断をするのか、何とていうのか、答えがあつてハッピーエンドじゃないところに良さがある、深い作品だと思いました。

【会 長】ありがとうございます。ハヤブサの2020年の帰還については、正しかったですよね。

【事務局】12月6日まで決まっています。

【会長】そういう意味では、時期的にフィットする作品と言えますね。他に御意見等ございますか。

【委員】時間的に、『ごん GON,THE LITTLE FOX』だけ27分と短いんですが、そこは考慮しなくてもいいんでしょうか。

【会長】事務局から説明をお願いします。

【事務局】最近は短めの作品が多く、今上映している『ハナビリウム』や『えんとつ町のプペル』はさらに短い25分という作品です。小さいお子様には、45分前後の長編よりも、短めの作品の方が退屈しないで観続けられるということもあるようです。

【会長】前回『ハナビリウム』の選定の時にも、作品の長さに対しての質問がありましたが、子どもたちの鑑賞を意識した長さの作品を提供することが、最近のトレンドなのかも知れませんね。

【委員】久しぶりに見たんですが、全天周という面では『HAYABUSA2-REBORN-』が凄くて、見応えがあったと思いました。『ごん GON,THE LITTLE FOX』は、全天周でなくても良かったのかな、という作品でしたが、福祉的な面では、「ごんぎつね」の話は良い物語だと思います。上映方法は、2本立てで上映されるんでしょうか。

【事務局】今まででしたら、土日祝日と夏休みなどは、1日3回上映していたので、3本別々の作品を上映したり、後から公開した作品を3回中2回上映したりというような選択肢があったんですが、新型コロナウイルス感染症対策のために、今は1日2回しか上映していないため、必然的に2本立ての上映形態になります。

【会長】ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【委員】それぞれ3～4か月ずつ上映時期がずれるんですが、同じ作品を上映し続けるということでしょうか。

【事務局】そうですね。ライセンスは1年あるので、上映開始から4か月ほどの期間は、その作品を優先的に上映し、それより先行して上映開始していた2作品については、お客様の入り具合や上映期間の長短を見て、上映を続けるか、打ち切るか判断することになります。打ち切らない場合は、今までなら3本立ての上映も可能ということになるんですが、今は2本しか上映できないため、後から上映を開始した2作品を上映しているところです。

【委員】全天周映画としては、『HAYABUSA2-REBORN-』が見応えがありました。『スーパーパワードッグ』は、座っていた席の位置にもよるのかも知れませんが、犬に焦点を当てているせいか、全体的に登場する人物や犬が大きく見えて、どこを見たら良いのか困るような見づらさを感じました。『ごん GON,THE LITTLE FOX』は、誰もが知っているという内容ですし、終わり方がスパッと終わって、その後いろいろ考えさせられるような時間もあるのかな、と思うところがありました。『HAYABUSA2-REBORN-』は先ほども指摘がありましたが、上映時期的に12月の帰還に向けてアナウンスすれば、より多くの方が観に来られるのではないかと思います。個人的には『HAYABUSA2-REBORN-』と『ごん GON,THE LITTLE FOX』が興味深く観られました。

【会長】私が犬を専門的に研究しているところもあるので、『スーパーパワードッグ』について、少しフォローしておきたいんですが、アメコミの『アベンジャーズ』とかのノリで、犬の品種による特徴、大型犬の性質の穏やかさとかをうまく説明しているところがあります。



BGMの使い方もそうなのですが、アメコミのノリで作られていて、たぶん、アメリカでは受けるとは思うのですが、日本だとちょっと感性的にずれるところがあるかも知れません。

あと、『ごん GON,THE LITTLE FOX』についてなんですが、ごんは教科書版に合わせた終わり方なんですね。新美南吉の原作どおりだと、撃たれた後、ごんは喋る（※正確には「ごんはうれしくなりました」と感情描写が入る）んですね。最後に残る余韻の印象がずいぶん違うんですが、よく皆さんが慣れ親しんだ教科書版に準じて制作されているようです。あと時代考証が、江戸時代の末期に限定したので、例えば火縄銃の扱い方などしっかり表現されていて、社会科の先生も語ろうと思えば語れる内容があって、国語も社会科もと、科学館が取り扱うには幅のあるお話だと言えらると思います。

『HAYABUSA2 -REBORN-』については、皆さん既に触れられていることの繰り返しになりますので、省略します。他に御意見いかがでしょうか。

無いようでしたら、上映作品の選定についてなんですが、過去の議論では、2作品を選んで、上映する順番は事務局にお任せするという結論もありました。今、御意見をいただいた中では、『スーパーパワードッグ』が、どちらかというとな少ないかな、と。『ごん GON,THE LITTLE FOX』と『HAYABUSA2 -REBORN-』が圧倒的に支持されていたかな、と思いましたが、いかがでしょうか。

#### 【特に異議なし】

【会長】では、特に異議がないようですので、『ごん GON,THE LITTLE FOX』と『HAYABUSA2 -REBORN-』の2作品を候補として、あと、上映時期についてはいかがでしょうか。先ほどのお話からすると、『HAYABUSA2 -REBORN-』の方が、12月に地球に帰還するというので、11月に上映するのが相応しいということでもよろしいでしょうか。

#### 【各委員、頷き、特に異議なし】

【会長】それでは、『HAYABUSA2 -REBORN-』を11月からの上映作品に選定し、残った『ごん GON,THE LITTLE FOX』の方を来年3月からの上映作品として選定することとして結論付けてよろしいでしょうか。

#### 【全員異議なし】

【会長】それでは御異議なしとして、『HAYABUSA2 -REBORN-』を11月から、『ごん GON,THE LITTLE FOX』を来年3月からの上映作品として選定させていただきます。

他に協議事項等、ございますでしょうか。

【事務局】事務局から一点、御連絡申し上げます。先ほどのガイドラインに従いますと、来年7月から上映する作品を年度内に選定することとなります。そこで、来年2月か3月に再び協議会を開催いたします。時期が参りましたら日程調整の御連絡を差し上げますので、よろしく願いいたします。

【会長】ありがとうございます。他に何かありますか。無いようでしたら、最後に諮問につ

いての答申内容の確認です。

「令和2年11月期及び令和3年3月期全天周映画上映作品の選定について」は、先ほどの結論どおり、令和2年11月期に『HAYABUSA2-REBORN-』を、令和3年3月期に『ごんGON,THE LITTLE FOX』を上映作品としてそれぞれ選定するという内容で答申書を作成いたします。

【全員異議なし】

【会長】以上で、本日の協議事項・報告事項のすべてを終了しましたので、進行を事務局にお返しいたします。

【事務局】長時間に渡り、熱心な御協議をいただき、ありがとうございました。

以上で、令和2年度第1回倉敷科学センター協議会を閉会いたします。

令和2年8月7日

会 長 富岡 直人 

---

議事録署名人 山田 裕史 

---

議事録署名人 岡本 美里 

---